

胸部の衣服圧と圧迫感について
鳥取大教育 ○伊藤 紀子

目的 衣服圧の胸部における快適領域は、著者らの各種衣服の衣服圧測定結果から推測して、胸腹部に比較してかなり高いと考えられる。そこで本研究では、衣服材料および圧迫面積の違いによって、胸部衣服圧の快適領域がどのように異なるか、着用実験により検討する。

方法 試料として伸長特性の異なる合繊芯およびゴム芯の1cm幅、2cm幅、3cm幅のベルト芯を用いた。着用実験は、被験者の胸囲寸法を基準とし、詰め寸法を変化させたベルト芯も被験者に着用させ、その際の圧迫感とベルト芯によってもたらされる衣服圧を圧力センサを用いて測定し、衣服圧と圧迫感との関係をとらえた。

結果 合繊芯は各試料幅とも圧迫感と衣服圧間に相関関係が認められたが、ゴム芯はいずれの試料幅とも認められなかった。また快適時の合繊芯の衣服圧とゴム芯の衣服圧間に有意差が認められた。そして相方の快適時の衣服圧とも胸腹部の衛生学的許容値とされている 40 g/cm^2 をはるかに上回った値であった。合繊芯、ゴム芯とも試料幅の違いによる快適時の衣服圧間に有意差が認められなかった。快適時、呼吸による衣服圧変動は合繊芯の場合、深呼吸時の衣服圧が平常呼吸時の2倍近く上昇するが、ゴム芯の場合、呼吸による衣服圧変動はほとんどみられなかった。部位による衣服圧と圧迫感は、合繊芯、ゴム芯とも前部、側部、背部の衣服圧間に有意差は認められなかった。しかし被験者が前部に圧迫感を訴えていることから前部は側部、背部にくらべ衣服圧に対する許容値が低いと考えられる。